

## まとめ: 後治療

- 後治療が全生存期間に影響を与えた可能性が考えられる。
- 後治療が全生存期間に与える影響の大きさを正確に評価することは非常に困難である。
  - 後治療の選択は無作為割付けされておらず、不均衡がある。
  - 割付け治療の効果と後治療の選択は交絡していることから、割付け治療の効果と後治療の効果とを分離することはできない。
  - 理論上、後治療が全生存期間に影響を及ぼすと考えられる。しかしながら、本試験はこのような仮説を検証できるようにデザインされていない。
  - 探索的にSNFTモデルを用いた解析を試みた結果、主要な解析結果の解釈に影響を与えるような新たな知見は得られなかった。SNFTモデルは多くの仮定を必要とする解析法であり、本試験のデータへの応用上の問題がある。
- 副次的評価項目である無増悪生存期間や奏効率<sup>a</sup>は後治療にほとんど影響されていないと考えられ、ドセタキセルと同等もしくはゲフィチニブにおいて良好であった。

29

## EGFR<sup>a</sup> 関連バイオマーカーに関する サブグループ解析

### EGFR遺伝子変異

<sup>a</sup> EGFR: Epidermal Growth Factor Receptor (上皮増殖因子受容体)